

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

ファイネット30年の歩み

酒類業界に新たに参入

[FINET VAN SERVICE]

JX手順

ファイル結合機能リリースのご案内

EDIのすすめ [最終回]

【標準化】の扉 [最終回]

Vol. **40**
2016 Autumn
ファイネット発行

ファイネット 30年の歩み

3

2002～2006年

2002年10月に、株式会社ファイネットは酒類VANを統合し、同時に卸店、酒類・食品メーカー他7社が出資会社として参画しました。商品情報データベースサービス（FDB）事業を開始し、製配販間でのデータ交換における標準化推進会議を発足させたのも、この2002年度～2006年度の時期です。また、酒類VANの統合、標準化推進への取組みに伴い、情報セキュリティ、およびその運用にも力を入れました。

*企業名は当時の名称です。

競争は店頭で、インフラは共同で 酒類業界に新たに参入

サービス事業の領域を拡大

酒類VANがファイネットVANに統合

2002（平成14）年10月、企業間情報交換インフラの一元化を目指して、それまで酒類メーカー・卸店を中心とした酒類食品企業間情報システム協議会（SJK）*が運営していた酒類VANを当社の加工食品VAN（商品流通VANサービス）に統合し、酒類メーカーと卸店を含めたデータ交換事業を開始しました。

統合の目的は、ユーザーの利便性向上と安価なサービスの提供、酒類・加工食品業界を網羅する企業間情報システムの標準化の推進、画像情報を含めた業界商品情報データベースの充実でした。それまで酒類業界と加工食品業界のそれぞれのインフラが存在していたため、ユーザーの利便性を損なっていることが課題でした。

2002年のこの酒類VANの統合を契機に、ファイネットは酒類・加工食品業界の「情報系の共通インフラ」としての認知を高めるべく、その普及・推進活動に取り組むとともに、より簡便にVANの利用を可能とする事業の推進によりいっそう注力していきます。

* SJK（酒類食品企業間情報システム協議会）は1971（昭和46）年に、食品卸店の最大手である国分俣が中心となって設立された協議会であり、酒類VANの運営、普及推進を行っていました。

商品情報データベースサービス（FDB）事業を開始

2002年9月、新たな領域へのサービスとして、商品情報データベースサービス（FDB）を開始しました。それまで酒類加工食品データベースセンター（以下SKDBC）*が運営していた商品情報データベースを引き継ぎ、製配販における商品情報の授受効率化を目指した共有型のデータベー

スです。当初、登録企業はメーカー78社、卸店27社、商品件数は約2万件でした。

SKDBCは当時、酒類や加工食品の主要メーカーと卸店の商品情報データベースを整備していました。しかし、普及・推進が十分でなく、実際の活用が大きな課題となってきました。そこで、どのような形でSKDBCの事業を継承するか議論した結果、「ファイネットに」というメーカーからの要望が出てきました。SKDBCの事業が進まなかった要因としては、データベースへの要望が卸別や業態別で異なり、それを統一するのが難しかったことと、メーカー側が標準的なデータベースをあまり整備していなかったことが挙げられます。また、FDBは文字情報から商品画像までの商品情報を幅広く網羅した、業界唯一のデータベースとして期待されました。

ファイネットは、この事業を商品流通VANに続く新規事業として注力し、いっそうの普及活動に取り組みました。登録企業と利用企業のそれぞれのニーズを分析し、機能追加による内容の充実を図る一方で、利用促進に向けての細かな営業活動を実施していきました。2003年10月からは、FDBに業務用商品関連の項目を追加して充実を図るとともに、業務用卸店の加入を促進しました。

* SKDBC（酒類加工食品データベースセンター）は、1999年から、主要メーカーおよび卸店19社の運営委員が中心となって、流通コストの削減を目的として、業界商品情報データベースの活用・普及推進を行っていた任意団体で、（財）日本加工食品卸協会にその事務局をおいていました。



第1回 酒類・加工食品業界標準化推進会議の様子（2003年10月）

標準化推進活動をスタート

2003年10月に、酒類・加工食品業界標準化推進会議がメーカー25社および卸店9社の有志企業によって発足され、ファイネットに事務局が設置されました。以後、企業の海外進出、マーケットのグローバル化の進展も見据えながら、商品識別コード、企業識別コード、商品マスタ同期化など具体的なテーマについて議論・検討がなされ、今日まで積極的な活動が展開されています。ファイネットも、業界の企業間情報交換に関わる標準化・効率化の推進母体として尽力しています。

新しい経営・運営体制へ変革

新たな出資会社加わる

2002（平成14）年11月に、酒類VAN統合にあわせて新たに7社が出資企業として加わり、酒類・加工食品業界VANとして事業を拡大しました。出資企業は以下のとおり合計20社となり、資本金も増額されました。

出資企業（アンダーラインは新規出資企業）：

味の素(株)、(株)ニチレイ、日本水産(株)、(株)加ト吉、(株)ニチロ、マルハ(株)、雪印乳業(株)、(株)インテック、カゴメ(株)、カルピス(株)、キューピー(株)、ネスレ日本(株)、ハウス食品(株)、キリンビール(株)、伊藤忠食品(株)、加藤産業(株)、国分(株)、(株)明治屋、(株)菱食、(株)野村総合研究所（企業名は当時の名称です）

ユーザーのコスト削減に貢献

ファイネットは、ユーザー（メーカー）への適正なコストでデータ交換サービスを提供してコスト削減に貢献するために、2004年4月に商品流通VANサービス料金の値下

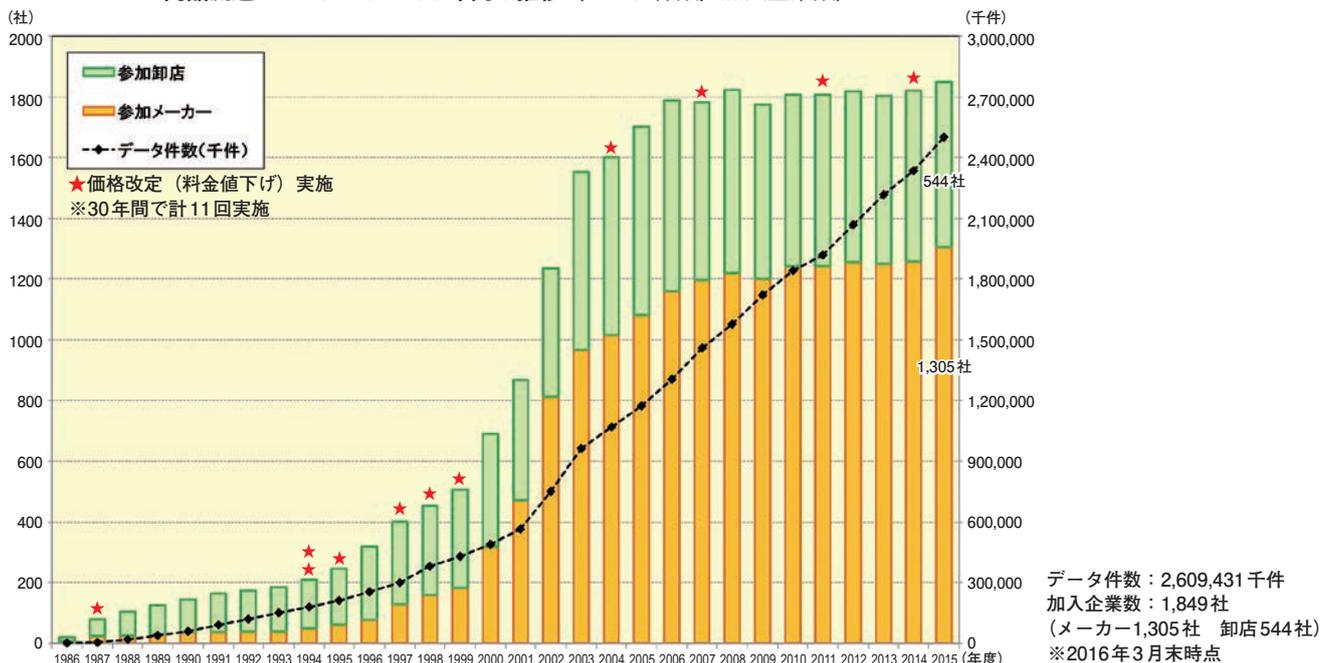
げを実施しました。一方、2002年度からは出資企業への配当を開始しました。

また、インターネットの普及が加速しはじめ、この時代のニーズ合わせ、従来のホスト接続に加えて、WebEDI、資材VANの各サービスの充実を図ってきました。こうしたお客様のニーズに基づくサービスの充実とともに、利用促進に向けたお客様支援活動、加入企業の利便性の向上を目指したシステム開発、適正なコストで高い安全性のデータ交換サービスの提供などに努めました。

安定成長を目指して

2002年度から2006年度までの商品流通VANサービス（ホスト接続、WebEDI接続、FAX変換サービス）の普及では、年間のデータ件数は2002年度に7億5,000万件であったのが、2004年度には10億件を突破し、2006年度には13億3,000万件に達しました。一方、同じ期間の加入企業数の推移を見ると、2002年度には1,235社（メーカー812社、卸店423社）が2006年度には1,702社（メーカー1,157社、卸店620社）

商品流通VANサービス 30年間の推移（データ件数/加入企業数）





浦野光人氏（社長在任 2004～08）



現在の本社事務所に移転（東京都中央区日本橋兜町13-2兜町偕成ビル7階）



「FINE FINET」創刊号



本社受付

に増加しました。この急増の背景には、酒類VAN統合を契機に、酒類メーカーおよび大手卸店の当社VAN利用が急速に拡大したことが挙げられます。その結果、業界内におけるいっそうの標準化、効率化、業務コスト低減につながりました。

また、運用体制の強化を図って、開発投資にも力を入れてきました。2002年度から2006年度までに取り組んだシステム開発には、WebEDIのWeb統合機能追加、FDBの機能追加等、基幹EDIシステム改修、資材VAN脆弱性対応、基幹システムのセキュリティ強化、サーバ入れ替えなどでした。

さらに、2005年1月に、安全・安心なデータ交換サービスの提供のためにISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証を取得し、これに基づく情報セキュリティ体制を構築していきました。2006年度には、ISMS認証基準の国際規格であるISO 27001への移行に伴う規格基準の変更に対応するため、システムの運用管理業務の実施とセキュリティ強化に取り組みました。そして2007年1月に、ISO /IEC 27001の認証を取得しました。

2003年秋、ファイネットは、酒類・加工食品業界のユーザーに向けて、企業間データ交換についての最新動向・活動事例などを紹介する情報誌『FINE FINET』（「ファイン・ファイネット」季刊、8ページ）を創刊しました。毎号、ユーザーのインタビューや座談会などをおして、システムの活用事例などを発信しています。

2004年6月に、代表取締役が垣添直也氏から浦野光人氏（㈱ニチレイ代表取締役社長）に交代しました。

2006年4月には設立20周年を迎え、11月には「設立20周年感謝の夕べ」を帝国ホテルにて開催しました。また同年10月には本社事務所を、現住所である東京都中央区日本橋兜町13-2兜町偕成ビル7階に移転しました。

（「ファイネット 30年の歩み」次回はよいよ最終回です。標準化推進、危機管理体制強化……現在へとつながるこの10年を振り返ります。どうぞ、ご期待下さい。）

【お詫びと訂正】

「FINE FINET」vol.39、6ページの「旧事務所ビル」の写真が間違っておりました。訂正し、お詫び申し上げます。



旧事務所ビル 港区芝四丁目11番5号〔中央のビル〕（1994～2001）

JX手順 ファイル結合機能リリースのご案内

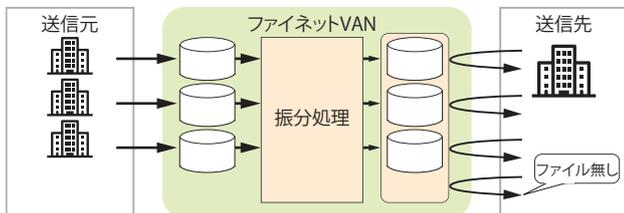
ファイネットではNTT東日本／西日本よりINSデジタル通信モードの終了が発表されていることから、ホスト接続をご利用のユーザー様には、インターネット手順 (ebXML-MS手順、AS2手順、JX手順) への移行を推進しています。このたび、JX手順の利便性向上を目的に、受信ファイルの結合機能を2016年9月2日にリリースいたしました。

今回は、そのJX手順ファイル結合機能について、「機能概要」および「お申込み方法」をご紹介します。

機能概要

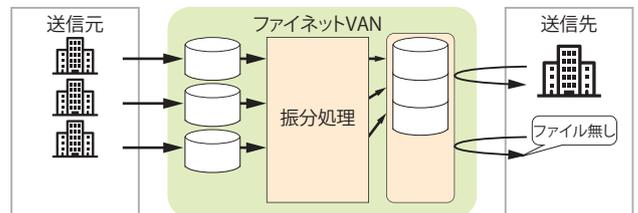
JX手順では、全銀協TCP/IP手順等と異なりデータ受信時に未受信のファイルがなくなるまで受信を繰り返す必要があります (プロトコルの制約)。この繰り返し受信の改善策として、ファイネットVAN側でファイルの結合を行い、受信ファイルを一括で取得することができる機能をリリースいたしました。また、本機能により、受発注データのように複数の送信元からのファイルを一度に受信する際に、これまで1ファイル毎に発生していた通信開始・終了処理がなくなり、通信時間の飛躍的な短縮を実現いたしました。

【リリース前】



配信データが無くなるまで繰り返し受信が必要

【リリース後】



1回の通信で全配信データの受信が可能

通信時間の飛躍的な短縮を実現！

ファイル数	レコード数/1ファイル	ファイル結合有無	通信時間*
300ファイル	20レコード	ファイル結合 なし	7分~30分程度
		ファイル結合 あり	1秒~25秒程度

*通信時間は当社テスト環境での測定結果です。
実際の通信時間は、お客さまのご利用環境により異なります。

お申込み方法

JX手順のお申込みは「手続きサイト」からお申込み頂けます。



〈新規にJX手順をお申し込みの場合〉

① 手続きサイトの各種お申込みより、「ステーション追加」を選択してください。

〈既にJX手順をご利用の場合〉

① 手続きサイトの各種お申込みより、「ステーション更新」を選択してください。

② ステーション追加/更新の「プロトコル設定」より、ファイル結合「する」を選択します。

【注意事項】

- ・ファイル結合機能はJX手順 (2007年度版) のみに対応となります。
- ・ファイル結合の上限値は100メガバイト* となります。上限値を超えた場合、以降のファイルは別ファイルとして結合されます。受信漏れを防止するため、ファイル結合機能を利用する場合においても、通信ソフト側は、繰り返し受信を行う設定としていただきますようお願いいたします。

*100メガバイト = 約819,200レコード

◆ 本件に関するお問い合わせ先 ◆ ファイネット ヘルプデスク ☎0120-091-094 (受付時間: 年中無休 7:30~23:00)

第4回 [全4回]

EDIの
すすめ

EDIを最近始めた、
あるいはEDI比率をもっと増やしたいと
お考えの皆様へ

これまでこのコーナーでは、ちょうどEDIを始めたばかり、あるいは今後もっと本格的にEDIを活用して業務の効率化を図ろうとお考えの皆様に向けて、改めてファイネットのVANサービス概要についてご説明してきました。

最終回となる今回は、皆さまのEDIをサポートするためにファイネットがご提供している様々なサービスについてご案内いたします。

EDIサポート機能

〈平常時〉

- 1. 送受信状況照会サービス**：データ交換の送受信状況をユーザー様がWebでご確認いただけるサービスです。データ発生有無や処理結果、また送受信時間の確認などにご活用いただけます。
- 2. 手続きサイト**：ファイネットでは各種申込み専用のWebサイトをご用意しております。また、申込み以外にも、ユーザー様ご自身にて自社の「担当者登録状況」をご参照いただける機能やファイネットへのお問い合わせをメール送信できる機能も備えております。
- 3. 別データ種設定サービス**：新たな取引先様からの受信データを、通常のデータ種とは別のデータ種で受信いただけるサービスとして「別データ種 設定サービス」をご提供しています。データが正しく作成されているか心配な場合や、本番データと混在させたくない場合などに、既存と区別して受信することができます。
- 4. データ着信メール通知機能サービス**：データ着信時に送信先ユーザー様に対してメールにてお知らせする機能です（ご利用にあたっては、事前にユーザー様にて設定をしていただく必要があります）。
- 5. ヘルプデスク（年中無休・7:30~23:00）によるサポート**：ファイネット ヘルプデスクは、ユーザー様からのWebEDI操作説明や、データ送受信状況確認などの問い合わせ対応、回線エラー及び、振分処理におけるエラー対応などを行う部隊です。ユーザー様がファイネットのシステムを使ううえでの、様々な問題解決のための操作・技術支援を行っております。

また、上記以外にも、ご要望に応じて営業担当による窓口紹介や自社利用実績報告（直近データ件数・接続状況等々）などのサポートが実施可能です。EDI拡大希望のユーザー様におかれましては、是非お気軽に営業推進部（TEL03-5643-3450）までご相談ください。

〈システムトラブル時〉

- 1. データ再セットサービス**：ユーザー様にてシステムトラブルが発生した場合、また、誤ってデータを消去してしまった場合などの救済策として「データ再セットサービス」をご用意しております。システムリプレイスやテスト等で、再度データを受信したい場合などにもご利用できます。ご希望の場合はヘルプデスク（0120-091-094）までお電話ください。
- 2. 臨時データ送受信サービス**：ユーザー様の通信環境やシステムトラブルによりEDIデータが送受信できなくなった場合の救済策として、専用Webサイトを用いた「臨時データ送受信サービス」をご用意しております。ご希望の場合はヘルプデスク（0120-091-094）までお電話ください。
- 3. 障害管理サイト**：万一の障害発生時に、ユーザー様へいち早く障害状況や影響範囲を情報発信するWebサイトです。サイトへのアクセス方法は「手続きサイト」、または影響ユーザー様へお知らせするメールに記載された「一時URL」の2通りです。

EDI利用率が上がるにつれ、万が一のトラブル対応が重要になってきます。ファイネットでは、サービス基盤における品質向上の取組みとして、上記サポートを実施しております。

以上のEDIサポート機能については、全てのファイネット会員企業様に無償でご利用いただけます。是非、覚えておいていただければと存じます。

ファイネットでは、今後もユーザー様にとって、安心安全なサービスをできるだけ安くご提供するよう努めて参ります。是非ご活用ください。（EDIのすすめ：完）

1 商品情報とは

酒類・加工食品業界における商品情報は、大きく2つに分類できます。

- マスタ情報** ●商品取引や物流で用いられる情報。「商品名」「JANコード」「サイズ」など。
●流通業界全体共通でやり取りされる内容が多く、標準化が進んでいる。
- 品質系情報** ●酒類・加工食品業界特有の情報。「アレルゲン」「栄養成分」「製造工程」など。
●相対でやり取りされる内容も多く、標準化がなかなか進まない。

品質系情報を中心に、項目(定義・数)や授受の方法は多様化しており、情報提供側における商品情報提供業務の効率化と、情報利用側における正確かつ鮮度の高い情報入手の両立が課題となっています。

2 商品情報授受における【標準化】の取組み

当社が事務局を務める商品情報授受標準化会議(略称:PITS)*¹では、平成26年度農林水産省補助事業「標準商品規格書とそのガイドラインの検討会」*²にて策定された「標準データリスト」「標準商品規格書」「ガイドライン」を踏まえ、これらに準拠した「PITS標準項目第1版」「PITS標準フォーム第1版」を策定し、これらの普及推進による商品情報授受の効率化・標準化を目指しています。

◇PITS標準項目第1版

法令および食品流通の商習慣などを考慮し、商品情報のうち標準となる項目とその定義を定めたもの

◇PITS標準フォーム第1版

PITS標準項目を反映させた商品規格書

「PITS標準項目第1版」「PITS標準フォーム第1版」は、ファイネットホームページからダウンロードいただけます。

<http://www.finet.co.jp/hyojyunka/index.html>

「PITS標準フォーム第1版」

●取組みの全体像



- *¹ 商品に関する標準的な情報項目と授受方法の策定・普及を目的とした、製配販31社、業界団体4社、DB事業者8社が参加する会議体
- *² 「平成26年度農山漁村6次産業化対策事業」における「食料品バリューチェーン構築支援事業」のうち、加工食品製造・流通指針策定事業の取組み
- *³ 日本GCI推進協議会において、2008年に製配販3層で検討・策定された、原材料配合比など、相対で授受する項目も含めた品質系情報の標準形
- *⁴ 業務用分野における品質情報を主とする商品情報授受の効率化を目的として、FDB活用推進を図る業務用卸6社の活動

(【標準化】の扉:完)

[FINET ANNOUNCEMENT] ファイネット・アナウンスメント

FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET（ファイン・ファイネット）」の宛名や部数の変更等がございましたら、右記までご連絡ください。

【連絡先】 株式会社ファイネット 営業推進部
Tel 03-5643-3450 / e-mail info@finet.co.jp
(総務部)

ファイネットへのお支払いは、お得で便利な「預金口座振替」をお勧めします

弊社では、お支払方法に「預金口座振替」がございます。この機会に、是非ともご検討いただければ幸いです。

【ご利用のメリット】

- (1)お振込手数料はお客様負担となりますが、振替手数料は弊社負担でございます。
- (2)月々のお振込手続きが不要になり、業務の簡略化が図れます。

【お申込方法】

- (1)弊社、手続きサイトからお申込ください。
手続きサイト URL <http://www.finet.co.jp/fts>
- (2)手続きサイトのご利用がご不明の場合のお問い合わせ先

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

(年中無休7:30~23:00) (総務部)

年末年始休業について

弊社の年末年始休業日は、右記の通りでございます。ご迷惑をお掛けいたしますが、なにとぞご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ファイネット ヘルプデスクは通常通り稼動しておりますので、お問い合わせの際はご利用ください。

【年末年始休業日】

- ・2016年12月30日（金）～2017年1月3日（火）

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

(年中無休7:30~23:00) (総務部)



FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.40 2016 Autumn 2016年10月1日発行

[発行] (株) ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 小原 応孝

<http://www.finet.co.jp>